

令和2年6月5日

各 位

会 社 名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全
 (コード番号：8732 東証第一部)
 問合せ先 財 務 部 長 権代 徹也
 (TEL. 03-4540-3804)

2020年5月次 月次概況（速報）のお知らせ

2020年5月次の当社グループの月次概況（連結ベース）を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

記

年 月	2020年3月期											
	2019年									2020年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位：百万円)	436	430	438	446	552	397	411	293	432	506	450	1,077
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	64,962	85,708	73,679	70,709	121,698	72,241	69,676	43,497	45,475	60,432	87,717	163,604
外国為替取引口座数 (単位：口座)	331,528	332,653	333,795	334,878	335,861	336,996	337,918	338,691	339,443	339,790	340,014	340,483
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	64,226	63,060	64,426	64,422	63,282	63,293	64,021	63,383	63,183	69,788	66,290	65,510
一般顧客	57,695	58,098	58,594	58,474	59,231	58,929	59,250	58,536	58,072	64,763	61,596	62,895
金融法人（B to B）	6,531	4,961	5,831	5,948	4,050	4,363	4,770	4,847	5,111	5,025	4,693	2,614
マネパカード口座数 (単位：口座)	152,808	153,899	155,079	156,330	157,321	158,101	158,861	159,676	160,307	161,324	162,167	162,655

年 月	2021年3月期											
	2020年									2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位：百万円)	407	303										
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	82,072	92,851										
外国為替取引口座数 (単位：口座)	340,605	340,735										
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	62,460	62,004										
一般顧客	60,227	59,654										
金融法人（B to B）	2,232	2,350										
マネパカード口座数 (単位：口座)	162,828	163,034										

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っておりません。
2. 外国為替取引口座数、マネパカード口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
3. 2011年8月より差金決済取引（CFD）の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高（原取引単位を米ドルに換算）及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
4. 外国為替取引預り証拠金は、一般顧客からの取引によるものとB to B取引先である金融法人からの取引によるものを区分して表示しております。

< 5月次の概況 >

5月の外国為替相場は、米ドル/円については、月間の値幅（高安の差）が3円程度の狭いレンジでの値動きとなった4月を更に下回る2円程度の非常に狭いレンジでの値動きとなりました。1ドル=107円台前半で取引が始まり、新型コロナウイルス感染拡大の責任を巡り米中の対立が激化すると懸念からドル売り円買いの流れとなり6日には105円台後半の安値を付けました。8日に発表された4月の米雇用統計は新型コロナの影響を受け前代未聞の結果となりましたが、市場予想ほど悪くなかったとの受け止め方からドルが急速に買い戻され11日には107円台後半まで値を戻しました。その後は106円台後半から107円台後半での膠着が続き、19日には日銀の新たな資金供給手段を議論すると発表が材料視され円売りが優勢となり108円台前半の高値をつけましたが、その後も107円台での膠着が続き107円台後半で月末を迎えました。一方、米ドル/円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨については値動きが拡大しましたが、外国為替相場の変動率は全体としては前月とほぼ同水準となりました。

このような状況の中、外国為替取引高は前月比13%増加の928億通貨単位となりました。一方、営業収益は全体としての取引高当たり収益性の低下及び新型コロナによる市場の混乱からの金利低下の影響を受け前月比25%減少の303百万円となりました。また、顧客基盤については、外国為替取引口座数は前月比130口座増加の340,735口座、マネパカード口座数は前月比206口座増加の163,034口座となりました。外国為替取引預り証拠金は一般顧客分が減少、金融法人分が増加となり、全体では455百万円減少の62,004百万円となりました。